

<目的>夫婦別姓の導入をはじめとする民法改正をめぐる動きが報じられている。姓に関する議論のもつ意義と今後の動向を予測する1つの資料とするため、これから結婚する可能性をもつ大学生の姓に関する認識や自身の選択希望を中心にその結婚観を捉え、これらに影響する要因について考察する。

<方法>大学生を対象とした質問紙調査(1995年10月)による。有効回答は4回生以上238名(有効回収率は64.0%)。質問項目は、結婚観及びこれに影響すると考えられる属性(性別、交際相手の有無など)、親の期待、家族生活や社会の変化に関する価値観(5段階評定による19項目)計47項目。クロス集計結果及び平均値の多重比較に基づき有意差の認められたものを中心に、自由記述の分析を加えて考察した。

<結果>現行法支持は全体の18.5%、法改正による別姓導入支持は81.5%で、男性に比べ女性の別姓導入支持が有意に高かった。現行法のもとでの自身の希望では、全体の74.8%が夫の姓を希望し、今後夫婦別姓が導入された場合でも、全体の71.0%が夫の姓を希望するとした。一方、別姓が導入された場合、導入支持者中の11.9%が別姓を選択したいと回答したが、これには交際相手の有無の影響がみられた。別姓導入の支持者は、居住や性別分業について、より非伝統的考えをもち、女性の就労継続志向(男性では相手に対する希望)がより強かった。また、「現行法支持で同姓希望」、「改正支持で同姓希望」、「改正支持で別姓希望」の三者間で、価値観項目の得点に有意差が認められた。